
第 5 章 内蔵オプションの取り付け

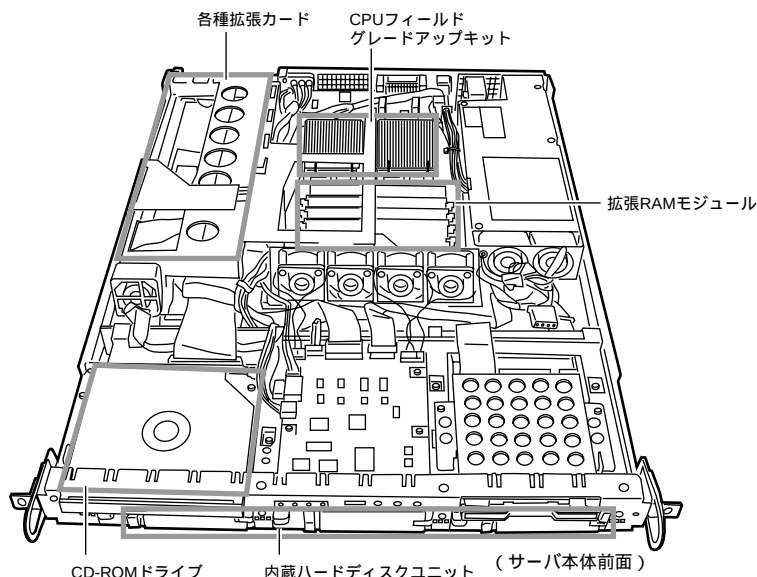
この章は、本サーバへの内蔵オプションの取り付け方法を解説しています。
内蔵オプションの取り付け／取り外しを行う場合は、担当保守員に依頼してください。

CONTENTS

5.1 内蔵オプションの種類	122
5.2 各カバーの取り外し	124
5.3 CPU の取り付け	126
5.4 拡張 RAM モジュールの取り付け／取り外し	129
5.5 内蔵 CD-ROM ドライブユニットの取り付け	131
5.6 内蔵ハードディスクユニットの取り付け	132
5.7 拡張カードの取り付け	135

5.1 内蔵オプションの種類

本サーバには、以下の内蔵オプションを取り付けることができます。



ポイント

取り付けや取り外しを行う場合に取り外したネジは、取り付け時には必ず同じ装置に使用してください。異なる種類のネジを使用すると、装置の故障の原因となります。



警告

感電



- ・ 内蔵オプションの取り付けや取り外しを行う場合は、サーバ本体および接続している周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをサーバ本体から抜いたあとに行ってください。感電の原因となります。
- ・ 電源ユニットは分解しないでください。感電の原因となります。

禁止



- ・ 弊社の純正品以外のオプションは取り付けしないでください。故障・火災・感電の原因となります。
- ・ 内部のケーブル類や装置を傷つけたり、加工したりしないでください。故障・火災・感電の原因となります。

注意

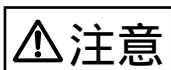
- 電源を切った直後は、サーバの内部の装置が熱くなっています。内蔵オプションの取り付けや取り外しを行う場合は、電源を切ったあと 10 分ほど待ってから、作業を始めてください。
- 内蔵オプションは、基板や半田づけした部分がむきだしになっています。これらの部分は、人体に発生する静電気によって損傷を受ける場合があります。取り扱う前に、添付のリストストラップを必ず着用してから作業を行ってください。
- 基板表面や半田づけの部分に触れないように、金具の部分や、基板の縁を持つようにしてください。
- この章で説明している以外の取り付け方や分解を行った場合は、保証の対象外となります。

5.2 各カバーの取り外し

ここでは、フロントカバーとトップカバーの取り外しについて説明します。



各カバーの取り外し、取り付けを行うときは、サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをサーバ本体から取り外してください。感電の原因となります。



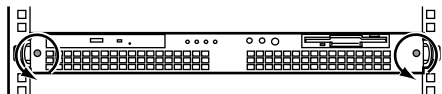
フロントカバーやトップカバーを取り外して内蔵オプションを取り付ける場合は、必ず添付のリストストラップを着用してください。

リストストラップは、作業が終了するまで外さないでください。

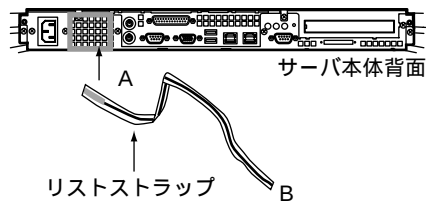
5.2.1 フロントカバーの取り外し

■ 取り外し手順

- 1 ラックドアを開けます。
(「3.1 ラックドアを開ける」を参照)
- 2 電源を切断し、サーバ本体から電源ケーブルを取り外します。
(「3.3 電源を切る」参照)
- 3 フロントカバーの2箇所のネジをゆるめ、フロントカバーを取り外します。



- 4 リストストラップを着用します。
リストストラップは、本サーバに添付されています。リストストラップは、サーバ本体に接着する面（図中A）と、手首に巻き付ける面（図中B）があります。
A側のシールをはがして、図に示すようにサーバ本体背面に接着します。
B側は手首に巻き付けてください。



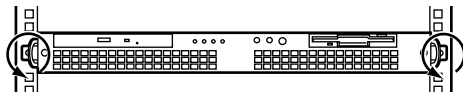
■ 取り付け手順

フロントカバーの取り付け手順は、取り外しと逆の手順で行います。

5.2.2 トップカバーの取り外し

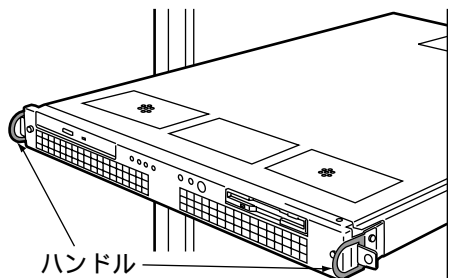
■ 取り外し手順

- 1 フロントカバーを取り外し、リストストラップを着用します。
(「5.2.1 フロントカバーの取り外し」参照)
- 2 サーバ本体に接続されているケーブル類 (SCSI ケーブル、LAN ケーブルなど) をすべて取り外します。
- 3 サーバ本体とラックを固定している 2 箇所のネジを外します。



- 4 サーバ本体をスライドさせ、ラックから取り外します。

サーバ本体両サイドのハンドルを持って、30cm ほどスライドさせます。
ラックから取り外す際は、サーバ本体をしっかりと持って、落とさないように取り外します。

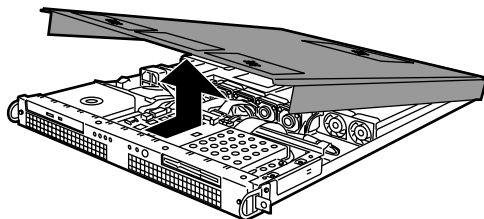


- 5 サーバ本体のトップカバーを固定しているネジを外します。
ネジはサーバ本体の背面に 4 箇所あります。



サーバ本体背面

- 6 トップカバーをゆっくりと後方にスライドさせ持ち上げて、サーバ本体から取り外します。



■ 取り付け手順

- ・ トップカバーの取り付けは、取り外し手順と逆の手順で行います。
- ・ トップカバーを取り付けるまで、リストストラップは外さないでください。
- ・ トップカバーを取り付けるときに、サーバ本体内部に不要な部品や工具を置き忘れたままにしないようご注意ください。

5.3 CPU の取り付け

本サーバは「CPU フィールドグレードアップキット (GP5-FG22L)」を用いて、最大2つのCPUを搭載できます。

なお、CPUを2つ搭載する場合は、同一種／同一周波数（同一型名）のCPUを搭載してください。



取り付けや取り外しをするときは、サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをサーバ本体から取り外してください。感電の原因となります。

■ CPU 増設時の注意事項

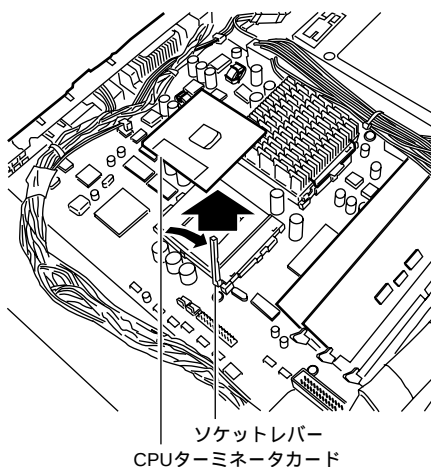
- OS を変更してください
既に1CPUで運用しているサーバでCPUを増設する場合には、OSを変更することで、マルチプロセッサカーネルに変更できます。OSの変更方法については、「A.3 CPU 増設時のOSの変更手順」を参照してください。

■ CPU の取り付け手順

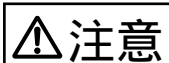
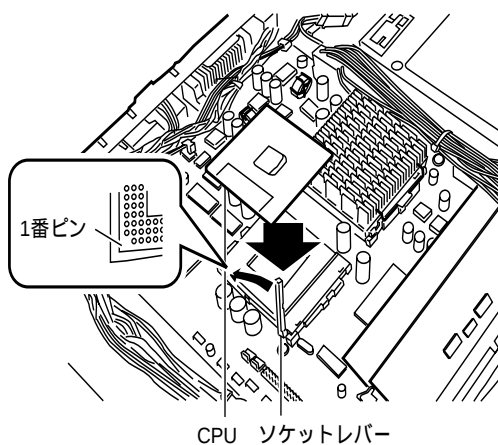
- 1 電源を切断し、フロントカバー／トップカバーを取り外します。
(「5.2 各カバーの取り外し」参照)

- 2 CPUターミネータカードを取り外します。

ソケットレバーを外側にずらし、
ゆっくりとソケットレバーを上げ、
CPUターミネータカードをCPUソケットから取り外します。

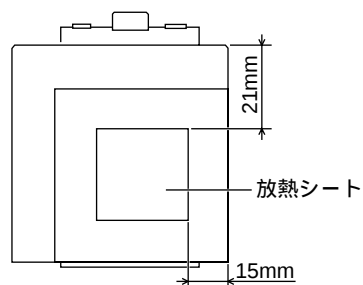
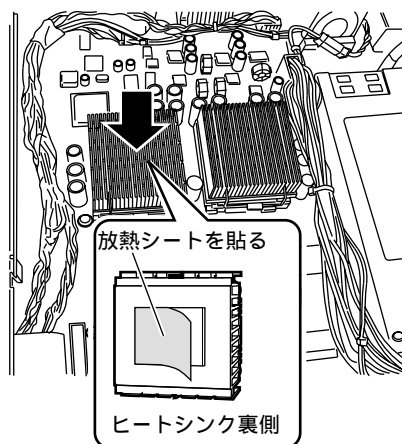


- 3 CPU を取り付けます。
CPU ソケット側の 1 番ピンを確認し、CPU のピンと CPU ソケットのピン穴が合うように取り付けます。
ソケットレバーを CPU ソケットに固定します。



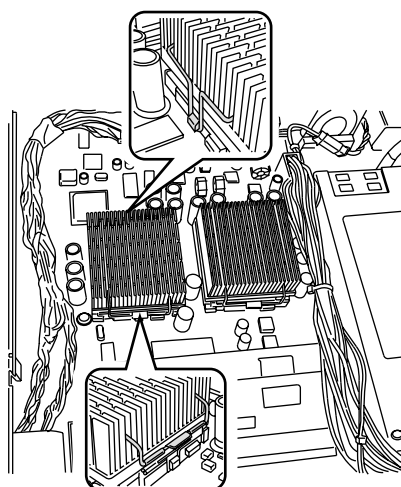
CPU 取り付け時は、CPU のピンが曲がらないように十分注意して CPU ソケットに CPU を取り付けてください。

- 4 ヒートシンクを装着します。
ヒートシンクに放熱シートを貼り付け、ヒートシンクの向きを間違えないように、CPU の上に装着します。



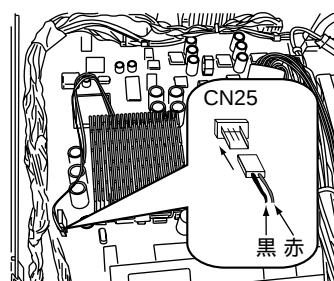
5 CPU とヒートシンクを、ヒートシンク押え金具で固定します。

サーバ本体の前面から見て、ヒートシンクの右側から3番目のスリットと、左側から5番目のスリットに、ヒートシンク押え金具を入れます。サーバ本体後方のヒートシンク押え金具を、CPUソケットのツメに引っかけるように押しこみます。同じようにサーバ本体前面側のヒートシンク押え金具を、CPUソケットのツメに引っかけるように押しこみます。



6 サーマルセンサーケーブルをベースボードに挿し込みます。

CPU フィールドグレードアップキットのケーブルをベースボードのCN25コネクタに取り付けます。図に示すように、方向を間違えずに取り付けてください。



5.4 拡張 RAM モジュールの取り付け／取り外し

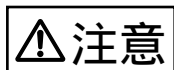
拡張 RAM モジュールは、ベースボードの DIMM（Dual In-Line Memory Modules）スロットに取り付けます。



感 電



取り付けや取り外しをするときは、サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをサーバ本体から取り外してください。感電の原因となります。



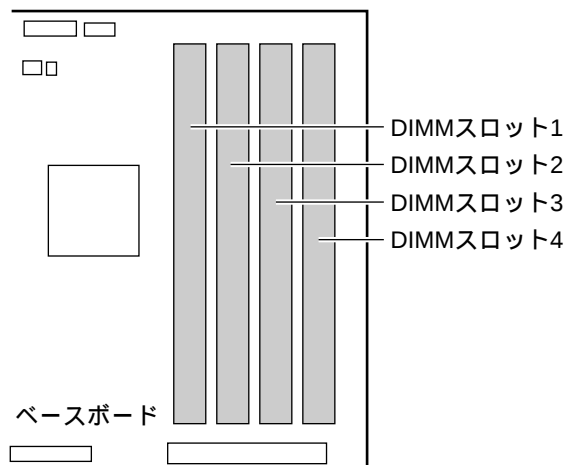
禁 止



弊社純正の拡張 RAM モジュール以外は取り付けないでください。故障の原因となる場合があります。

■ 取り付ける前に

- 拡張 RAM モジュールは、DIMM スロット番号順（DIMM スロット 1 → DIMM スロット 2 → DIMM スロット 3 → DIMM スロット 4）に搭載してください。



- 本サーバに使用できる拡張 RAM モジュールは以下の種類があります。

品名（型名）
拡張 RAM モジュール 128MB (GP5-RM12M)
拡張 RAM モジュール 256MB (GP5-RM25M)
拡張 RAM モジュール 512MB (GP5-RM51M)
拡張 RAM モジュール 1GB (GP5-RM1M)

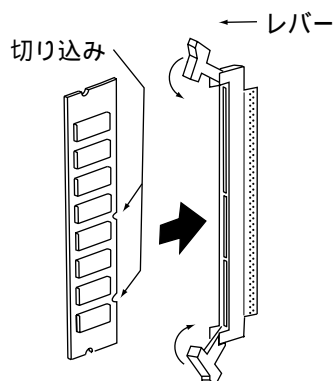


「RAS 支援サービス」の起動監視機能（POST 監視）を「監視する」に設定して運用している場合は、拡張 RAM モジュールの取り付け／取り外し前に、いったん「監視しない」に設定してから、取り付け／取り外しを行ってください。その後、再度「RAS 支援サービス」で起動監視機能を「監視する」に設定してください。

RAS 支援サービスについては、「8.8 RAS 支援サービスについて」を参照してください。

■ 取り付け／取り外し手順

- 1 電源を切断し、フロントカバー、トップカバーを取り外します。
（「5.2 各カバーの取り外し」参照）
- 2 取り付ける DIMM スロットの、ダミーモジュールを取り外します。
ダミーモジュールが実装されている両端のレバーを開きます。
取り外したダミーモジュールは、保管しておいてください。
- 3 拡張 RAM モジュールの取り付け／取り外しをします。
取り付けるときは、コンタクト部分の切り込みで向きを判断して、DIMM スロットに正しく挿入してください。レバーが閉じます。レバーが完全に閉じない場合は、指で押してください。
取り外すときは、メモリの実装されている両端のレバーを開きます。



- 4 拡張 RAM モジュールが奥まで完全に挿し込まれたのを確認します。
- 5 フロントカバー、トップカバーを取り付けます。
（「5.2 各カバーの取り外し」参照）

5.5 内蔵 CD-ROM ドライブユニットの取り付け

本サーバは出荷時に内蔵 CD-ROM ドライブユニットを搭載しています。

5.6 内蔵ハードディスクユニットの取り付け

⚠ 注意

指 示



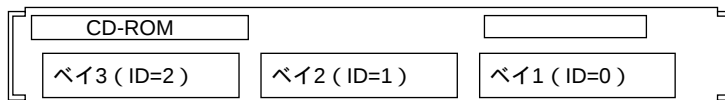
- ハードディスクユニットを乱暴に取り扱うと、内部のデータが破壊されることがあります。万が一の事態に備えて、重要なデータは常にバックアップをとるようにしてください。また、別のハードディスクユニットにバックアップをとるときは、ファイル単位または区画単位でバックアップすることをお勧めします。
- 湿気やほこりや浮遊物の少ないところで使用してください。
- 衝撃や振動の加わる場所での使用や保管は避けてください。
- 直射日光のあたる場所や発熱器具のそばには近づけないようにしてください。
- 極端な高温や低温の場所、また温度変化の激しい場所での使用、保管は避けてください。
- ハードディスクユニットは絶対に分解しないでください。
- 内蔵ハードディスクユニットをぶつけたり、金属質のものを接触させたりしないよう十分注意し、取り扱ってください。

本サーバのハードディスクベイには、以下の内蔵ハードディスクユニットを最大 3 台まで取り付けることができます。

品名（型名）	概要
内蔵ハードディスクユニット 9.1GB (GP5-HDH9D)	9.1GB、10,000rpm、Ultra 160 SCSI
内蔵ハードディスクユニット 18.2GB (GP5-HDH8A)	18.2GB、10,000rpm、Ultra 160 SCSI
内蔵ハードディスクユニット 18.2GB (GP5-HDH8B)	18.2GB、15,000rpm、Ultra 160 SCSI
内蔵ハードディスクユニット 36.4GB (GP5-HDH63)	36.4GB、10,000rpm、Ultra 160 SCSI

■ ハードディスクベイのベイ番号

ハードディスクベイのベイ番号と SCSI-ID を以下に示します。
内蔵ハードディスクは、ベイ 1、ベイ 2 の順で搭載してください。



ハードディスクベイは、SCSI-ID の設定が不要です。

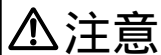
ハードディスクベイは、ホットプラグを採用したベイで、内蔵ハードディスクユニットとのインタフェースに SCA2（Single Connector Attachment2）コネクタを採用しています。電源ケーブルと信号ケーブルを一体化しているため、煩わしいケーブル接続が一切不要となります。



ポイント

取り付ける内蔵ハードディスクユニットから、コネクタキャップを取り外してください。

■ 取り付け手順



注意

「RAS 支援サービス」の起動監視機能（POST 監視）を「監視する」に設定して運用している場合は、ハードディスクユニットの取り付け／取り外し前に、いったん「監視しない」に設定してから、取り付け／取り外しを行ってください。その後、再度「RAS 支援サービス」で起動監視機能を「監視する」に設定してください。

RAS 支援サービスについては、「8.8 RAS 支援サービスについて」を参照してください。

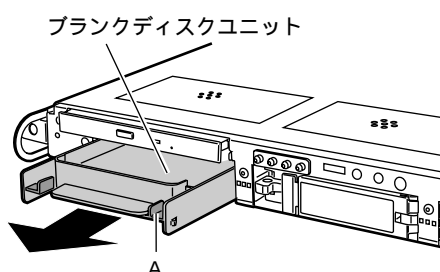
- 1 電源を切断し、フロントカバーを取り外します。
(「5.2 各カバーの取り外し」を参照)

- 2 内蔵ハードディスクユニットを取り付けるベイから、ブランクディスクユニットを取り外します。

内蔵ハードディスクユニットが搭載されていないベイには、ブランクディスクユニットが取り付けられています。

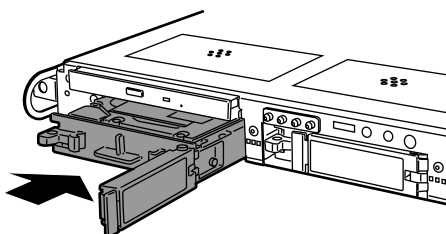
ブランクディスクユニットのツメ(図中 A) を内側に押しながら手前にゆっくりと引き出します。

取り外したブランクディスクユニットは、保存しておきます。



- 3 ハードディスクベイに内蔵ハードディスクユニットを取り付けます。

内蔵ハードディスクユニットのプラスチックレバーを開いた状態で、搭載するハードディスクベイに内蔵ハードディスクユニットを図中の矢印の方向に押し込みます。



- 4 プラスチックレバーをカチッと音がするまで閉じます。

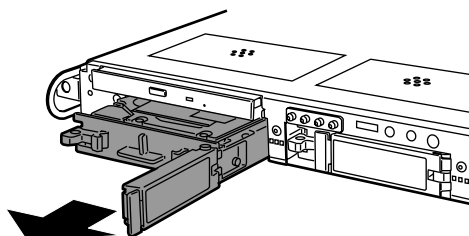
- 5 フロントカバーを取り付けます。

■ 内蔵ハードディスクユニットの取り外し手順

- 1 電源を切り、フロントカバーを取り外します。

- 2 内蔵ハードディスクユニットを取り外します。

取り外したい内蔵ハードディスクユニットのプラスチックレバーを右側に開け、手前に引き出します。そのとき、内蔵ハードディスクユニットに手を添え、両手で持って引き出してください。

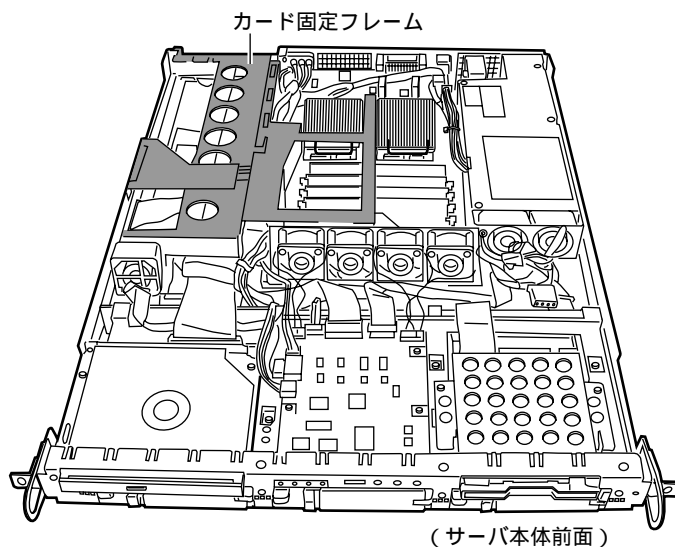


5.7 拡張カードの取り付け

ここでは、拡張カードの種類、取り付けの手順、および各拡張カードに関する留意事項について説明します。

5.7.1 拡張カードの種類

本サーバは、PCI スロットを 1 スロット備えており、PCI カードを 1 枚搭載できます。
拡張カードは、カード固定フレームに取り付けてから、サーバ本体に取り付けます。



■ 各スロットの仕様について

- PCI スロットの仕様
 - PCI スロットは、PCI ローカルバス仕様（第 2.2 版）に準拠しています。

■ 搭載可能な拡張カードと搭載順序

本サーバに搭載可能な拡張カードを以下に示します。

搭載カード（型名）	備考
LAN カード (GP5-183)	1000BASE-SX
LAN カード (GP5-185)	100BASE-TX
LAN カード (GP5-186)	Dual port
LAN カード (GP5-187)	IPSec
LAN カード (GP5-188)	1000BASE-SX
LAN カード (GP5-189)	1000BASE-T

5.7.2 拡張カード共通の留意事項

ここでは、拡張カード共通の留意事項について説明します。この留意事項をお読みの上、各拡張カード固有の留意事項を参照してください。

- 拡張カード固有の注意事項については、拡張カードに添付の取扱説明書、およびサーバ本体に添付されている注意事項をよくお読みください。
- 本サーバに拡張カードを搭載する場合は、「5.7.1 拡張カードの種類」の仕様と搭載順序を守って搭載してください。
- 本サーバで運用開始後に拡張カードの取り付け／取り外しを行った場合は、BIOS セットアップユーティリティで以下の設定を行ってください。
 - － 拡張カードの取り付け／取り外しを行ったあと、PCI IRQ Setting が「Auto」であることを確認してください。その場合は、IRQ は自動的に設定されます。その後、Reset Resource Assignment を「Yes」に設定し、拡張カードに割り当てられているシステムの資源をリセットしてください。
 - － 基本的には、IRQ を共有しないことを推奨します。
拡張カードの増設に伴い、IRQ が不足した場合は、基本的に同種の PCI デバイス同士で IRQ を共有させてください。IRQ を共有するときの注意事項については、後述する各拡張カードの留意事項を参照してください。
 - － パラレルポート、シリアルポートの IRQ を流用することができます。
パラレルポート、シリアルポートを使用していないときは、BIOS セットアップユーティリティで該当するポートを「Disabled」にすることで、その IRQ を流用することができます。

5.7.3 取り付けの手順と注意

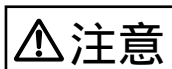
ここでは、拡張カードの取り付け手順と注意事項について説明します。



感 電



取り付けるときは、サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから取り外してください。感電の原因となります。



指 示

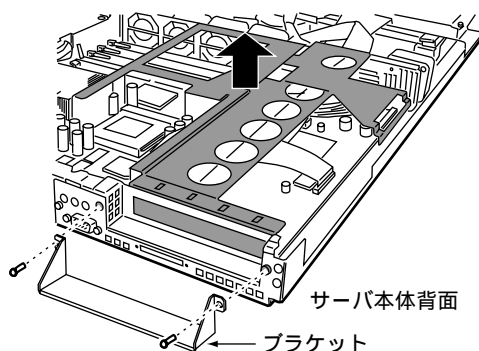


拡張カードは静電気の影響を受けやすいので、伝導パッドなどの上に置くか、取り扱う直前まで梱包袋に入れておいてください。

- 1 電源を切り、トップカバーを取り外します。
(「5.2 各カバーの取り外し」を参照)

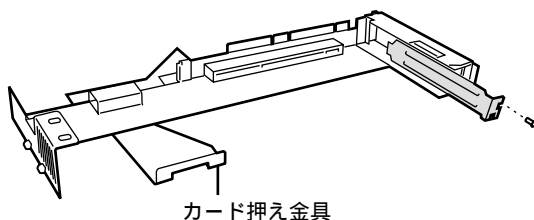
- 2 カード固定フレームを取り外します。

カード固定フレームに固定されているケーブルを取り外します。
サーバ本体とカード固定フレームを固定している2箇所のネジをはずし、カード固定フレームを持ち、引き上げます。
同時にブラケットも取り外します。



- 3 カード固定フレームからスロットカバーを取り外します。

ネジをはずし、スロットカバーを取り外します。
PCI ロングカードを取り付ける場合は、カード固定フレームからカード押え金具を取り外します。



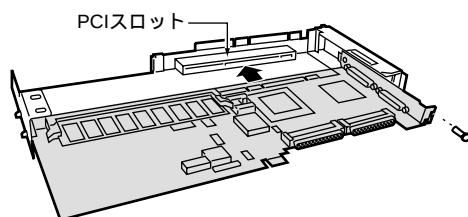
- 4 ダミーカードを取り外します。
ダミーカードの取っ手を持ち、取り外します。

- 5 カード固定フレームに拡張カードを取り付けます。

拡張カードをカード固定フレームのコネクタにしっかりと取り付けます。

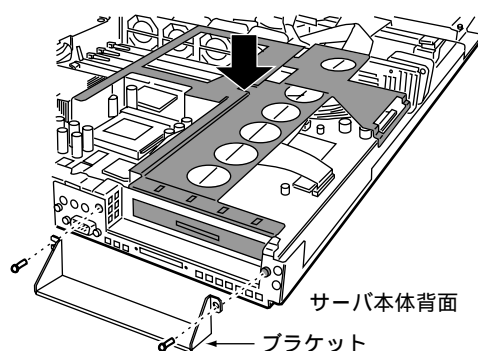
取り付けした拡張カードを、ネジで固定します。

PCI ロングカードを取り付けた場合は、カード固定フレームにカード押え金具を取り付け、カードを固定します。



- 6 拡張カードを取り付けたカード固定フレームをサーバ本体に取り付けます。

カード固定フレームをサーバ本体のコネクタにしっかりと取り付けます。2本のネジで固定する際に、手順2で取り外したブラケットも取り付けます。ケーブルクランプでケーブルをカード固定フレームに固定します。



- 7 トップカバーを取り付けます。

- 8 BIOS セットアップユーティリティを起動し、以下の設定を行います。
(「4.3.16 Advanced Options メニュー」の「● PnP/PCI Options メニュー」参照)

- 1 「PCI IRQ Setting」の値を設定／確認します。

「PCI IRQ Setting」が「Auto」であることを確認します。

- 2 「Reset Resource Assignment」を「Yes」に設定し、拡張カードに割り当てられているシステムの資源をリセットします。

- 9 システム資源情報を設定／確認します。

BIOS セットアップユーティリティの「Advanced Options メニュー」の「PnP/PCI Options」メニューで、「PCI IRQ Setting」が「Auto」であることを確認してください。(「4.3.16 Advanced Options メニュー」を参照)



ポイント

- 取り外したスロットカバーは大切に保管しておいてください。
- 取り外しは、上記と逆の手順で行います。

5.7.4 オンボード SCSI カードの留意事項

ここでは、オンボード SCSI カードに関する留意事項について説明します。なお、拡張カード共通の留意事項については、「5.7.2 拡張カード共通の留意事項」を参照してください。

■ オンボード SCSI カードご使用時の注意事項

- ・ オンボード SCSI カードには、本サーバがサポートしている SCSI 装置を接続してください。
サポートしていない SCSI 装置の動作は保証しません。



「RAS 支援サービス」の起動監視機能を「監視する」に設定して運用している場合は、SCSI アレイコントローラカードの取り付け／取り外し前に、いったん「監視しない」に設定してから、取り付け／取り外ししてください。その後、再度「RAS 支援サービス」で起動監視機能を「監視する」に設定してください。RAS 支援サービスについては、「8.8 RAS 支援サービスについて」を参照してください。

5.7.5 LAN カード／オンボード LAN の留意事項

ここでは、LAN カード／オンボード LAN に関する留意事項について説明します。
なお、拡張カード共通の留意事項については、「5.7.2 拡張カード共通の留意事項」
を参照してください。

本サーバで使用できる LAN カードを以下に示します。

搭載カード（型名）	備考
LAN カード (GP5-183)	1000BASE-SX 用
LAN カード (GP5-185)	100BASE-TX 用
LAN カード (GP5-186)	Dual port
LAN カード (GP5-187)	IPSec
LAN カード (GP5-188)	1000BASE-SX 用
LAN カード (GP5-189)	1000BASE-T 用

■ LAN カード／オンボード LAN ご使用時の注意事項

- 使用する LAN ドライバについて以下に示します。

LAN カード／ オンボード LAN	使用する LAN ドライバ (Windows 2000 Server)
LAN カード (GP5-183)	OS 標準提供の LAN ドライバ
LAN カード (GP5-185 / GP5-186)	GP5-185 LAN Driver V5.1L21 (本サーバの C:¥ Drivers に格納している LAN ド ライバ)
オンボード LAN	
LAN カード (GP5-187)	カード添付の LAN ドライバフロッピーディスク
LAN カード (GP5-188 / GP5-189)	

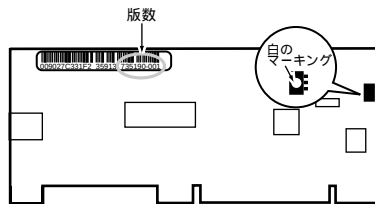
上記以外の LAN ドライバを使用しないでください。本サーバが正しく動作し
ません。

- 以下の版数で3ピンコネクタに白のマーキングがない LAN カード (GP5-185) は搭載できません。

版数は、LAN カードの基板にあるバーコード部分に記載されています。

- 729757-003
- 729757-004
- 735190-001
- 735190-002

3 ピンコネクタの位置は、カードの部品実装面側の右側です。



他のサーバで使用していた LAN カード (GP5-185) を本サーバに搭載する場合は、LAN カード (GP5-185) の版数および3ピンコネクタの白のマーキングの有無を確認してから搭載してください。

第 6 章 運用のための事前準備

この章では、本サーバを運用するまでの流れと、事前準備について説明します。

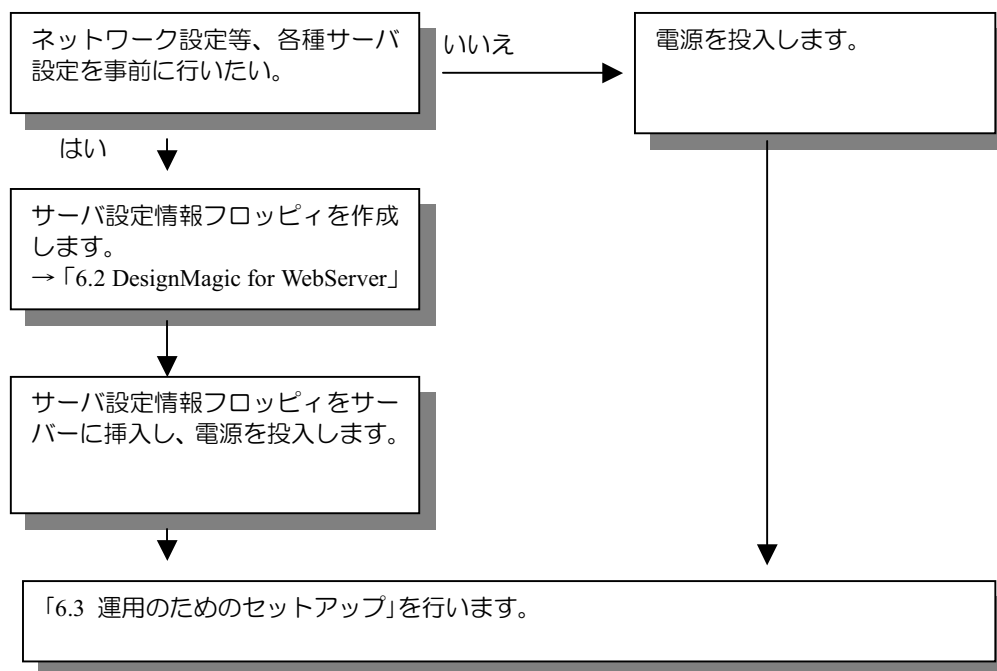
CONTENTS

6.1 セットアップの概要	144
6.2 DesignMagic for WebServer.....	145
6.3 運用のためのセットアップ	157

6.1 セットアップの概要

本サーバは、業界標準のハードウェアとソフトウェアを同梱しており、導入までの手順と時間を短縮できます。

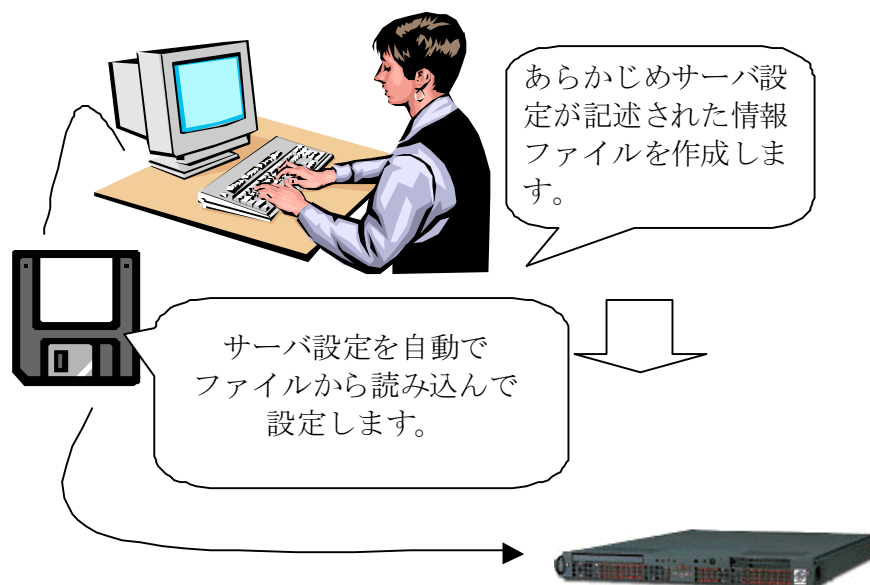
また、本サーバはあらかじめすべてのOS/ソフトウェアの運用に必要なパラメータをプレインストールして出荷しております。このため、このままでもお客様の環境ですぐに稼働させることが可能です。以下に運用までの大まかな流れを示します。



6.2 DesignMagic for WebServer

お客様の運用環境により、プレインストール設定からカスタムパラメータ値へ、事前に変更するための導入支援ツール「DesignMagic for WebServer」をリカバリCDのToolsフォルダに用意しています（オフラインサーバ設定用）。

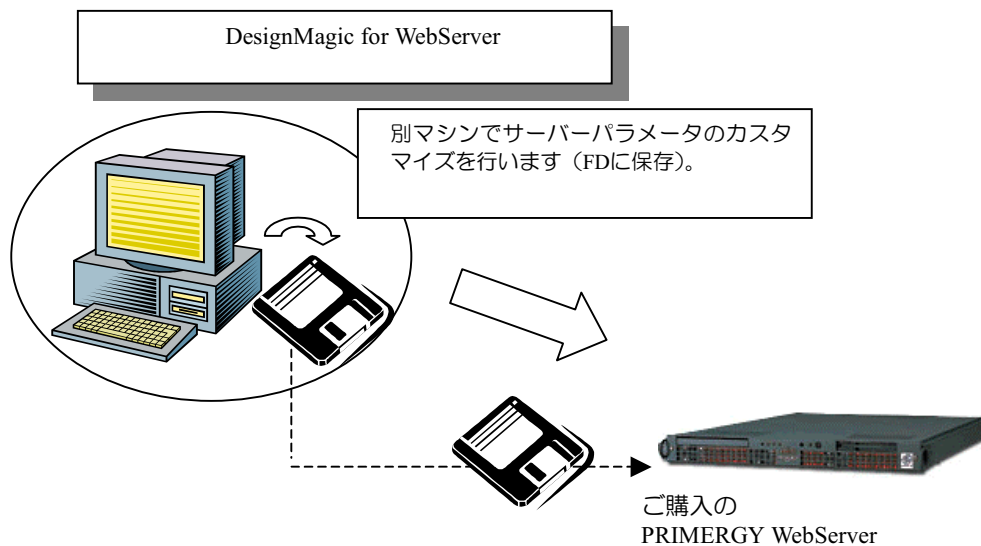
DesignMagic for WebServer



導入支援ツールを使ったサーバ導入

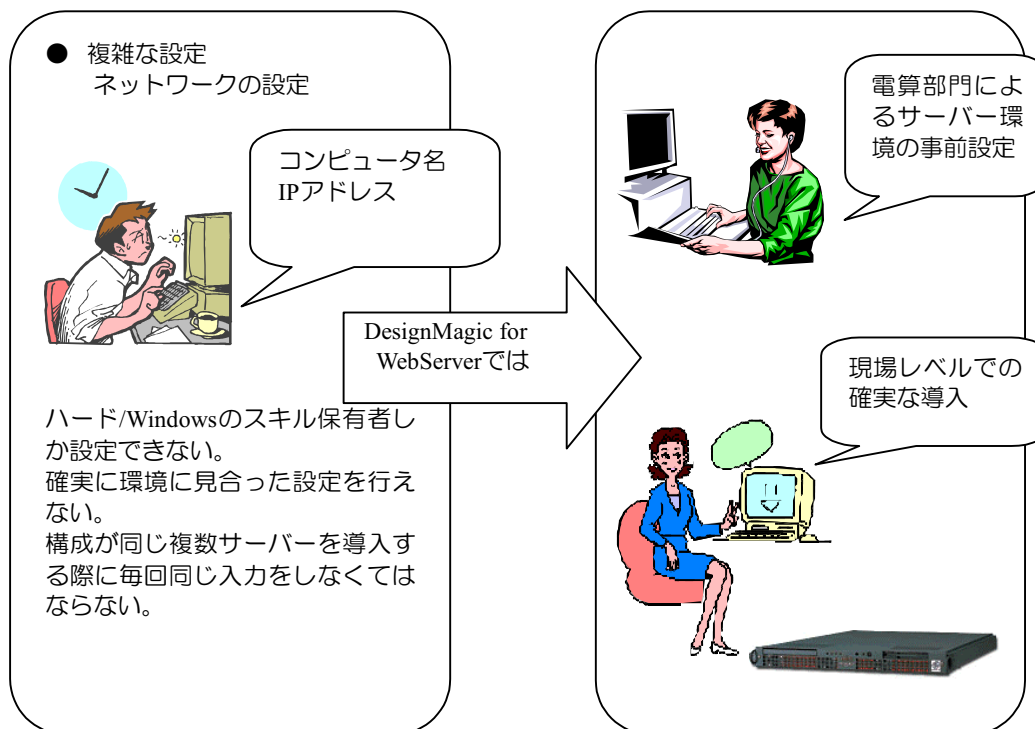
■DesignMagic for WebServer とは

DesignMagic for WebServerは、本サーバの初期導入を支援する、簡易セットアップツールです。すでに設定済みのパラメータをカスタマイズできます。



●DesignMagic for WebServerの特長

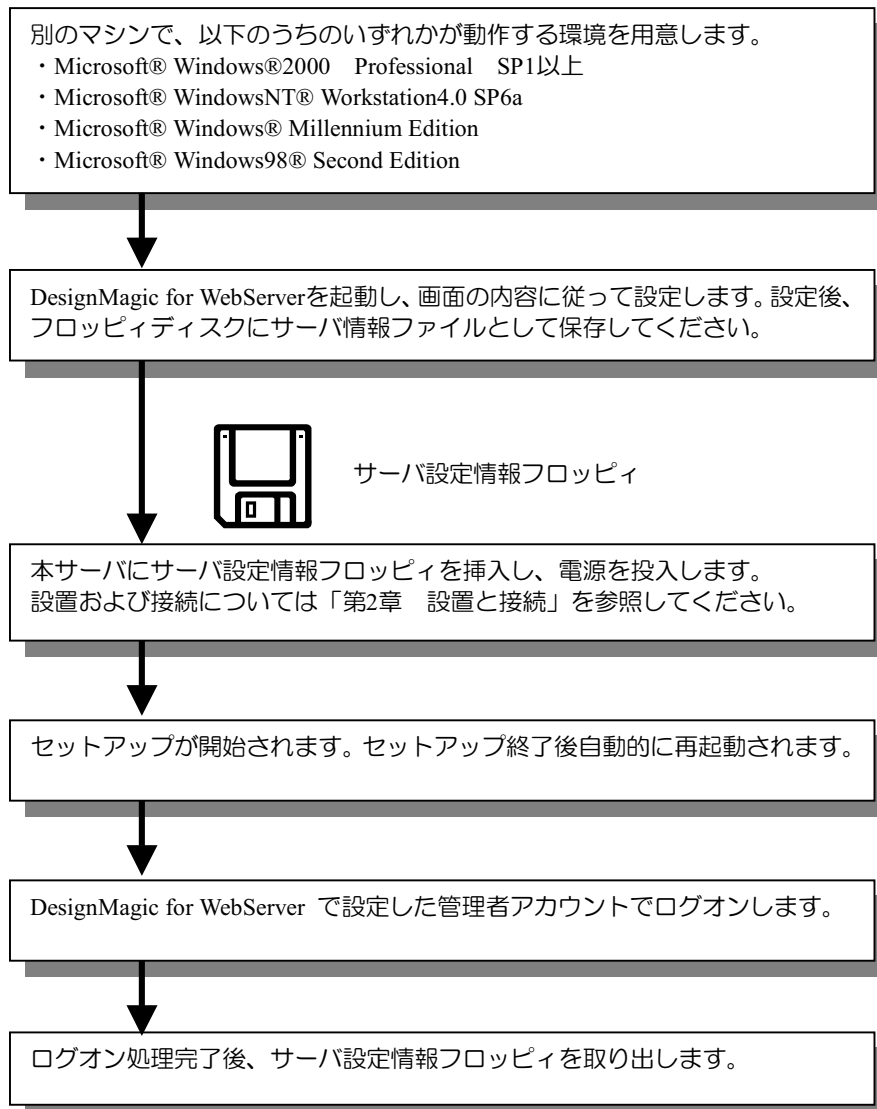
事前設定により、運用後のサーバー設定の煩雑さを改善し、お客様環境での運用に必要な設定を確実に、短期間で行うことができます。



● DesignMagic for WebServerでインストールした後の変更は…

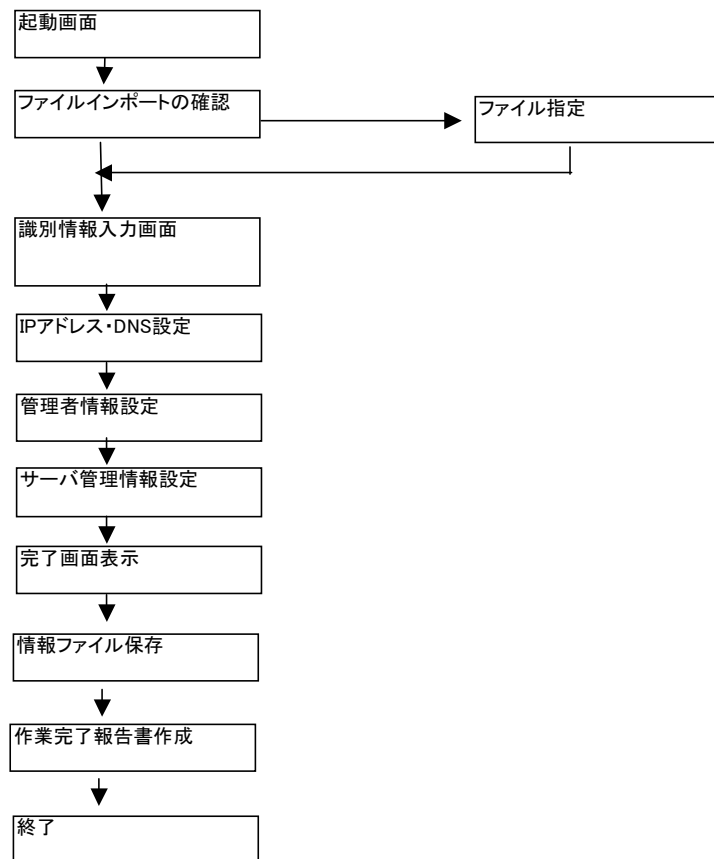
セットアップ後のサーバ運用に関する変更は、オンラインサーバ管理で行います。
詳細は「第7章 Web UI」をご覧ください。

6.2.1 DesignMagic for WebServerでのセットアップ手順



6.2.2 DesignMagic for WebServerでのサーバ設計の流れ

サーバ設計の流れを示します。



6.2.3 サーバ情報を設定する

DesignMagic for WebServerは、以下のいずれかのオペレーティングシステムがインストールされているマシンで操作します。

- Microsoft® Windows2000® Professional SP1以上
- Microsoft® WindowsNT® Workstation4.0 SP6a
- Microsoft® Windows® Millennium Edition
- Microsoft® Windows98® Second Edition



注意

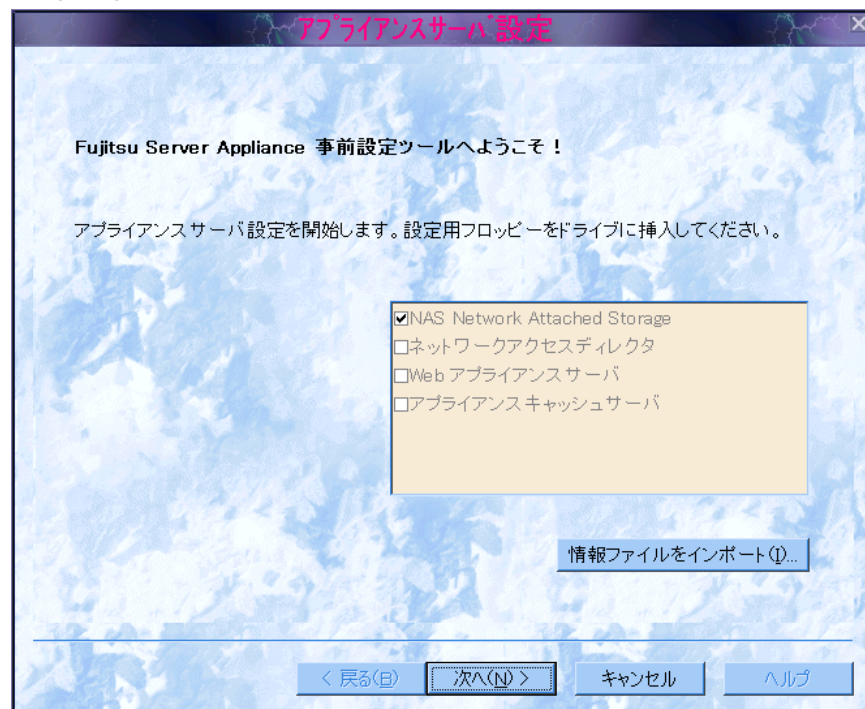
DesignMagic for WebServerを起動する前に、他のアプリケーションなどが起動している場合は、すべて終了してください。

■ 操作手順

1 FJSWAPP.exeを起動する

- 1) リカバリCDをセットし、WindowsのExplorerで、「Tools」フォルダの「FJSWAPP.exe」をダブルクリックします。

DesignMagic for WebServer の起動画面が表示されます。



- 2) 「Webアプライアンスサーバ」を選択し、[次へ] をクリックします。

— 設定済みの情報ファイルを修正する場合は、情報ファイルの入ったフロッピーディスクを挿入して「情報ファイルをインポート」をクリックし、情報ファイルを指定してください。



ポイント 情報ファイルはフロッピーディスクドライブからのみ読み込みます。

2 識別情報を入力する

- 1) サーバアプライアンス名およびDNSサフィックス名、サーバのメンバを設定します。

サーバをドメインに参加させるためには、あらかじめドメインコントローラにコンピュータアカウントを登録する必要があります。

また、サーバを登録する権限のあるユーザー名とパスワードを入力する必要があります。

詳細情報については、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

DNSサフィックスは、設定後、WebUI画面で確認できない場合がありますが、コンピュータ上には正しく反映されます。

- 2) 必要な設定を行い、[次へ] をクリックします。

 **ポイント** 各項目の詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。

3 ネットワーク設定を行う

管理側（非公開側）のLANカードには、「10.0.0.2」の固定IPアドレスがプレインストール設定されています。

必要に応じて、設定を変更してください。

管理側（非公開側）、および公開側の定義については、「6.3.2 ネットワーク環境を設定する」をご覧ください。

1) 管理側（非公開側）のLANカードのTCP/IPの設定を行います。

 **ポイント** 各項目の詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。

— 管理側（非公開側）のLANカード以外のカードのIPアドレスは指定できません。

プレインストールで自動的にIPアドレスを取得する設定になっています。

設定を変更したい場合は、WebUIにて設定してください。

詳細は、「6.3.2 ネットワーク環境を設定する」をご覧ください。

2) [次へ] をクリックします。

4 管理者情報を入力する

アフィリエイトサーバ設定

管理者情報
サーバの管理者情報を設定してください。

サーバ管理者情報

ユーザ名: Administrator

新しいパスワード(P)

パスワードの確認(Q)

タイムゾーンの設定(I)

(GMT+09:00) 大阪、札幌、東京

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル ヘルプ

- 1)サーバにログインするためのサーバ管理者名とパスワードの設定を行います。
サーバのタイムゾーンの設定を行うこともできます。

ポイント 各項目の詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。

- 2) [次へ] をクリックします。

ポイント タイムゾーンの設定は、一番最初にWebUIに接続する場合に警告が表示されます。必ずタイムゾーンが反映されていることを確認して下さい。
詳細手順については、「7.5.6 メンテナンスメニュー」の日付/時刻をご覧ください。

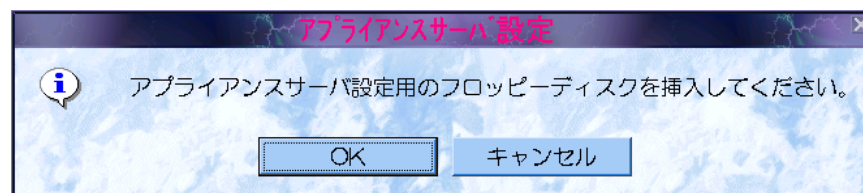
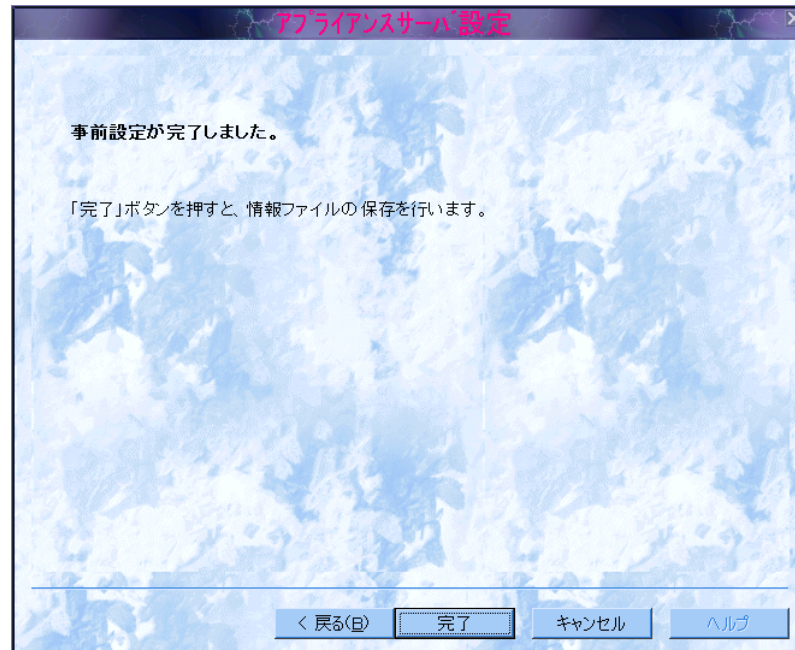
5 サーバ管理情報を入力する

1) 情報を設定し、[次へ] をクリックします。

各項目の詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。

-  **ポイント** アラート情報設定を事前に設定した場合は、最初にWebUI接続する時に警告が表示されます。必ずテストメールが送信されることを確認してください。
- 詳細手順については、「7.5.6 メンテナンスメニュー」の通知電子メールをご覧ください。

6 設定情報を保存する



- 1) 「完了」をクリックします。保存用フロッピーが挿入されていない場合は、挿入要求画面が表示されます。保存用フロッピーをセットし、「OK」をクリックします。

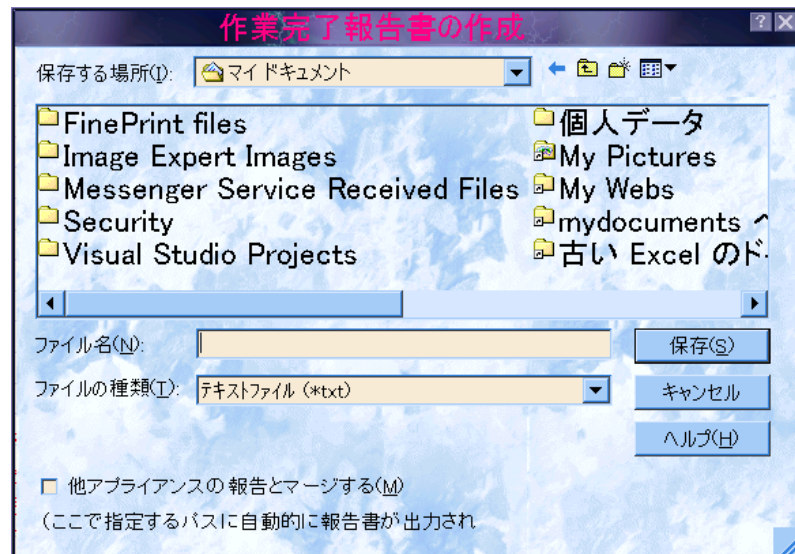
 **ポイント** サーバ情報ファイルは、フロッピーにのみ保存できます。

情報ファイルの保存先を指定するダイアログ画面が表示されます。

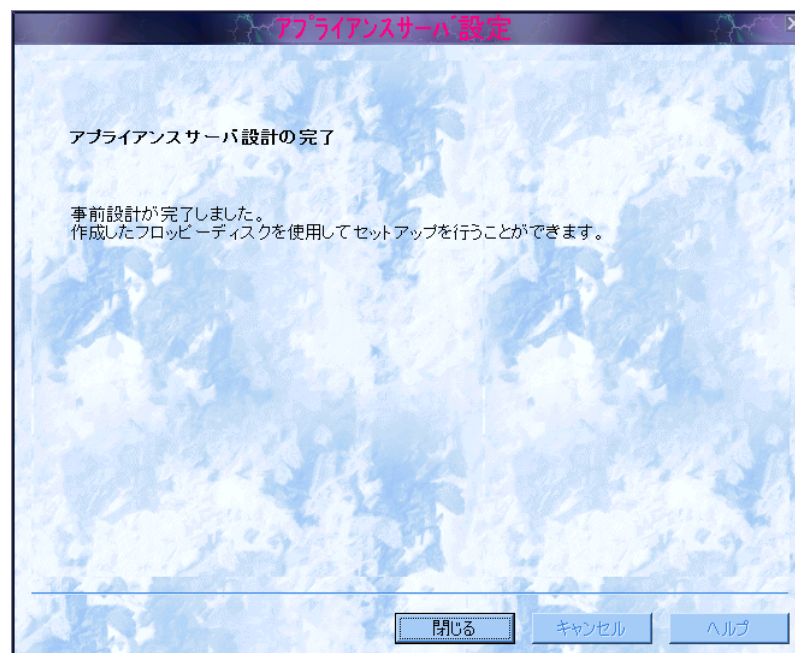
- 2) 情報ファイルの保存先を指定し、「OK」をクリックします。
情報ファイルが保存されます。

7 作業完了報告書の出力先を指定する

作業完了報告書ファイルは、このツールでの設定の完了報告として出力します。



1) 作業完了報告書ファイルの保存先を指定します。



これで事前設定は終了です。

2) [閉じる] をクリックし、ツールを終了します。

6.3 運用のためのセットアップ

本サーバの運用・管理には、Microsoft® Server Appliance Kit®のWeb管理画面を使用します。このWeb管理画面を、「Web UI」と呼びます。Web UIの詳細については「第7章 Web UI」をご覧ください。

●Web UIの特長

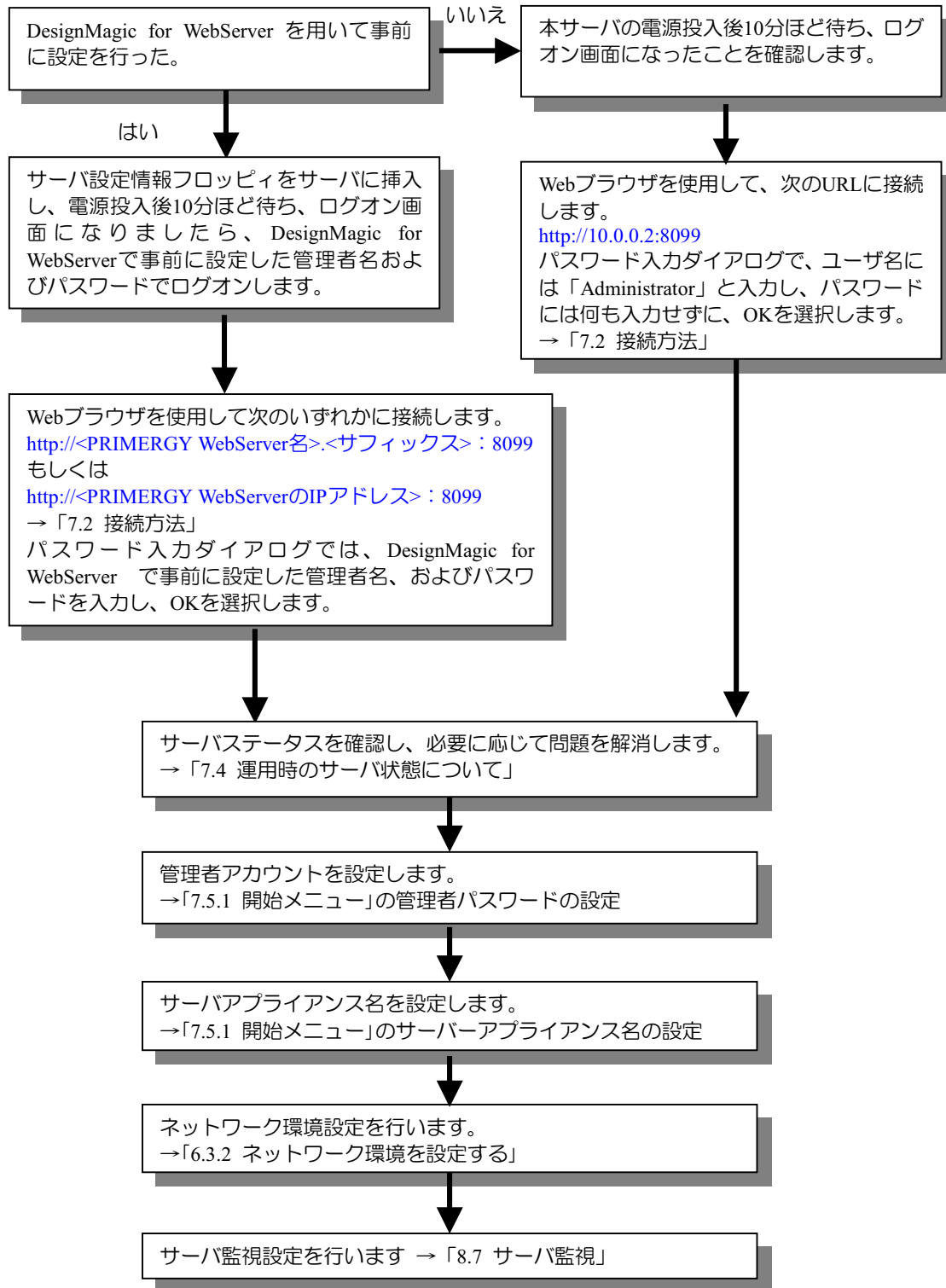
運用後のサーバ設定をWebブラウザを通じて行うことで、専門性を減少させ、運用環境に必要な詳細設定を確実に行うことができます。



⚠ 注意

- セットアップの際は必ずディスプレイを接続し、正常にセットアップが行われていることを確認してください。本サーバは電源投入後、自動的にセットアップが開始されますが、DesignMagic for WebServerで設定したドメイン情報等に誤りがある場合は、確認画面等がディスプレイに表示されます。
- DesignMagic for WebServerでドメイン情報を設定していても、Windows NT 4.0以前のOSのサーバでドメインコントローラを構築していると、「指定したドメインは無効です。ドメインの参加を後にして続行しますか？」とエラーになる場合があります。その場合は、一度ワークグループでセットアップを続行し、セットアップの終了後、Web UIでドメイン参加するようにしてください。
- セットアップ中に「Windows 2000 Advanced Server CD上のファイル'app932.fon'が必要です」というメッセージが表示される場合があります。その場合は、キャンセルを選択して続行してください。

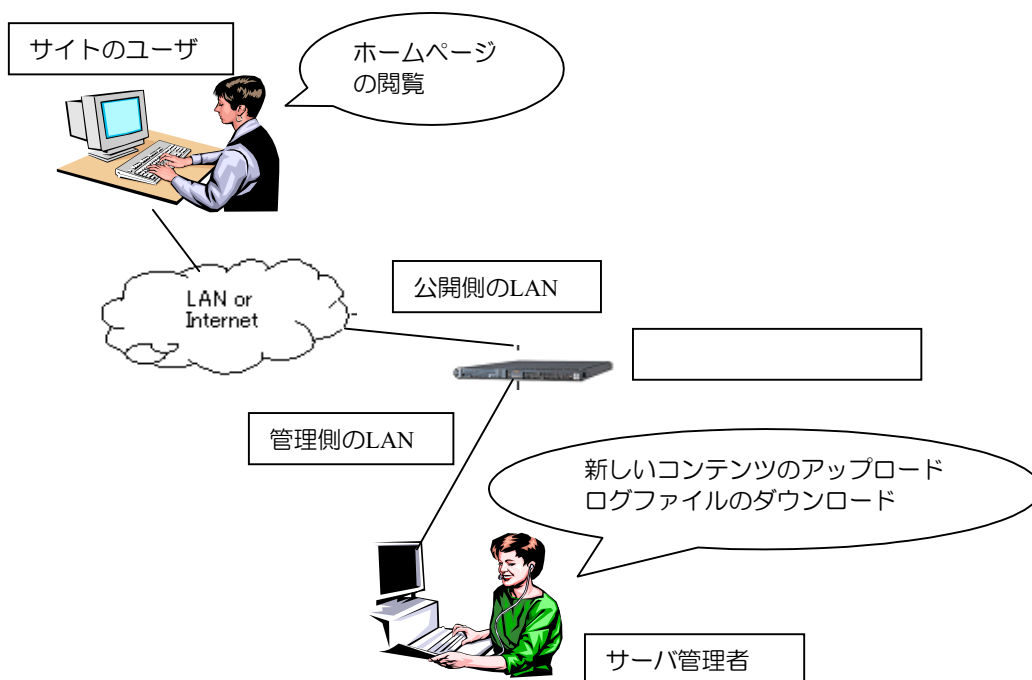
6.3.1 WebUIでのサーバ運用に必要なセットアップ手順



6.3.2 ネットワーク環境を設定する

本サーバには標準で2つのネットワークインターフェイスカード（NIC）が搭載されています。一方は「公開側用」で、コンテンツを公開するために使用されます。もう一方は「管理側（非公開側）用」で、Web UI を用いた管理・運用や、コンテンツのアップロード（コピー）に使用されます。本サーバのWeb UIで動作する各機能が使用する情報ですので、必ず公開側のLANをひとつだけ指定する必要があります。公開側以外のLANが管理側（非公開側）となります。オプションでLANカードを追加している場合、管理側（非公開側）のLANは複数個あることになります。また、インターネットで公開するためには、公開側のNICには必ず静的IPアドレスを割り当てる必要があります。

Web UIについては、「第7章 Web UI」をご覧ください。



- 1 一方のNICを公開側に設定する。
→「7.5.1 開始メニュー」のサーバー環境設定をご覧ください。
- 2 公開側のNICに静的IPアドレス（次のIP設定を使用してくださいを選択する）を設定する。
→「7.5.5 ネットワークメニュー」のインターフェイスをご覧ください。
- 3 管理側（非公開側）のNICに適切なIPアドレスを設定する。
→「7.5.5 ネットワークメニュー」のインターフェイスをご覧ください。